

ITU-T SG13 会合への提出寄書概要

(5G (第5世代移動通信システム) 関連)

提出元：日本
(原案作成元：総務省)

寄書名	原題	Proposed study issues to support the future mobile networking for 5G at the ITU-T		
	和訳	ITU-Tにおける将来のモバイルネットワークを支える5G (第5世代移動通信システム) の検討に関する提案		
開催期間		2015年4月20日～2015年5月1日	開催地	ジュネーブ
課題番号	課題名	全課題		
ALL/13				
<p>提出寄書の意図・目的： <input checked="" type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>5G (第5世代移動通信システム) の実現を目指す上で、ITU-Tでの検討におけるFuture Networks技術の将来モバイルネットワークへの適用や有線と無線の連携技術等の検討加速、及びITU-R等の他の標準化団体や5Gの推進団体との連携等の必要性等を提案する。</p> <p>本寄書は、「我が国としての意志を明示することが必要又は有効なもの」に該当するため、日本寄書とする。</p>				
<p>寄書の内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本においても5Gは将来の重要な情報通信システムになると考えており、産学官連携で研究開発、標準化、アプリケーションの検討や方向付けを推進する場として、昨年9月に「第5世代モバイル推進フォーラム」(The Fifth Generation Mobile Communications Promotion Forum (5GMF)) が発足し、オールジャパンでの検討体制で進めている。 5Gは、無線技術だけでなく、5Gネットワークを支えるモバイルフロントホールやコアバックボーンのネットワーク課題も含め、無線と有線技術が連携したトータルな通信ネットワーク技術に関する検討が必要。 ITU-TのSG13においては、Future Networks技術の将来モバイルネットワークへの適用、有線と無線の連携技術について、検討を加速することが期待される。 検討においては、ITU-RのWP5DにおけるIMT-2020の検討と連携し、ITU-Tとして貢献できるネットワーク課題を明らかにするとともに、世界各地域で活動している5Gの推進団体と連携しながらギャップ分析を行い、5Gモバイルを支えるネットワーク技術に関する要求条件やアーキテクチャを整理していく必要がある。 IMT-2020はIMT-2000やIMT-Advancedからの移行と発展が重要であり、ITU-Rや3GPPなどとの連携方針を考慮する必要がある。 				
<p>勧告に対する外国の状況： 韓国、中国等において5G検討を推進する動きがある。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連： ITU-R、3GPP、5GMF等</p>				